



バーゼルワールド2016

パテック フィリップ ジュネーブ 2016年3月

パテック フィリップ・ワールドタイム・クロノグラフ5930モデル： 愛好家、コレクターが長い間待ち望んできたコンプリケーション機能の希少な組み合わせ

新しいワールドタイム・クロノグラフ5930モデルは、長年パテック フィリップが得意としてきた2つのコンプリケーション機能を、1940年代に創作された唯一の例外を除き、現行コレクションとしては初めてひとつのタイムピースに統合した。このデビューは、最高級タイムピースの多くの愛好家、コレクターを歓喜させるに違いない。マニュファクチュールパテック フィリップは、水平クラッチ式のクラシックな手巻クロノグラフ、2つのコラムホイールを備えた世界で最も薄いスプリット秒針クロノグラフ、さらにはミニット・リピーター、シングルプッシュボタン・クロノグラフ、瞬時日送り式永久カレンダー搭載モデルなど、きわめて多岐にわたるクロノグラフを創作してきた。一方、パテック フィリップのワールドタイムは、その高度な機構と比類のない美的完成により、このカテゴリーでは最も追い求められるタイムピースとなっている。パテック フィリップの新しいワールドタイム・クロノグラフ5930モデルは、この互いに補完し合う2つのコンプリケーション機能をひとつのタイムピースに統合した。

これまでパテック フィリップのワールドタイム・クロノグラフは、今から70年以上前に創作されたユニークピース1点のみであった。1940年製作の腕時計No. 862 442（パテック フィリップ・ミュージアム所蔵 Inv. P996）がそれである。パルスメーター（脈拍数）、アズモメーター（呼吸数）目盛を備えており、おそらく医師が所有していたものと思われる。新しいワールドタイム・クロノグラフ5930モデルによりパテック フィリップは、ワールドタイム・クロノグラフを現行コレクションに加えると共に、二十一世紀にふさわしい最新技術を統合した。1940年以来、パテック フィリップにおいてワールドタイムとクロノグラフは華々しい技術進歩を遂げてきた。メカニズムはより精度が向上すると共に、格段に複雑となった。ひとつのムーブメントにこの2つのコンプリケーション機能を統合することは、より困難となったことはいままでのない。

新しい機械式ムーブメントの小宇宙

世界の24タイムゾーンの時間を同時に表示するワールドタイム機構をクロノグラフ・ムーブメントに搭載するというプロジェクトは、まずもってスペース・マネジメントの冒険である。クラシックなワールドタイムは秒針を備えていないのに対し、通常のクロノグラフはセンターのクロノグラフ秒針と30分計サブダイヤルを備え、数分の1秒を基本単位とする動きを行う。ワールドタイム・クロノグラフでは、これに加え24タイムゾーン各々を代表する都市名が記載された都市表示リングと、各々のタイムゾーンの現在時刻を示す24時間表示リング（常時回転する）がある。その結果、ワールドタイム・クロノグラフの文字盤上では数多くの要素（自動巻クロノグラフ、ワールドタイム）が様々な速度で動いていることになる。これらの動きは完璧に調和している必要がある。パテック フィリップ・シール認定規準によれば、常にできる限り薄型でエレガントな解決法を採用しなければならず、これは自動巻ムーブメントにももちろん適用されるため、技術的困難はさらに増加する。同時にクォリティと精度を少しでも犠牲にはならないのである。このためパテック フィリップの新しいムーブメントは、完成に先立ち、数か月にわたる数多くの厳しいテストを繰り返し、長期にわたる信頼性と精度が検証されるのである。新しいワールドタイム・クロノグラフ5930モデルに搭載されたムーブメントが、これらすべてのテストに合格していることはいままでのない。



2つの定評あるメカニズムを融合

新しいキャリバーCH 28-520 HUは、コラムホイール制御の垂直クラッチ式自動巻クロノグラフ・ムーブメント、キャリバーCH 28-520 Cと、1930年代にジュネーブの才能あふれる時計製作者、ルイ・コティエが発明した機構に基づくワールドタイム・モジュールから構成されている。パテック フィリップは、後にワールドタイム機構に2点の重要な改良を加え、1959年と1999年に特許を取得している。

しかしキャリバーCH 28-520 HUにおいては、クロノグラフとワールドタイムのいずれにも新たな多くの改良と変更が加えられている。軸の位置は移動され、受け（ブリッジ）の形状は変更されて薄型化が図られ、構成部品相互のクリアランスも最適化された。まったく新しいムーブメントといっても過言ではないのである。ここにはパテック フィリップの誇り高い時計製作の伝統と、最新世代のムーブメントとしての技術的、機能的革新が融合されている。機能はユーザー・フレンドリーでなければならない、とするパテック フィリップの哲学に準拠した容易な操作性にもそれは現れている。クロノグラフのスタートおよびストップ・プッシュボタンは2時位置、ゼロ復帰およびフライバック・プッシュボタンは4時位置に配置されている。クロノグラフ計測中に4時位置のプッシュボタンを押すと、クロノグラフ指針はゼロ復帰した後、自動的に新たな計測を開始する（フライバック機能）。垂直クラッチ式であるため、クロノグラフ秒針は、磨耗、精度の低下、パワーリザーブへの影響なしにセンターセコンドとして常時回転させておくことができる。

世界中の時刻を同時に表示

ワールドタイム機構はきわめて操作が容易である。ローカルタイムとは、12時位置にある都市が代表するタイムゾーンの時刻であるが、ローカルタイムは通常のように時、分針が見やすく表示する。他の23タイムゾーンの時刻は、都市表示リングの示す都市に対応する24時間表示リング（反時計回りに回転する）の数字を読めばすぐに分かる。24時間表示リングは濃淡に色分けされており、各々のタイムゾーンが昼か夜かが一目で分かる。タイムゾーンの変更は、10時位置のプッシュボタンを押して、到着地のタイムゾーンを代表する都市名が12時位置に来るまで、都市表示リングを回転させれば完了である。プッシュボタンを押すごとに、時針は1時間先に進み、同時に都市表示リングと24時間表示リングは反時計回りに1目盛（1時間分）ずつ回転する。タイムゾーンの変更の際、ワールドタイム機構は計時輪列と完全に切り離されるため、テンプの振り角と分針の動きはまったく影響を受けない。つまりクロノグラフの計測精度は完璧に保たれるのである。

複雑な機構にもかかわらず洗練されたエレガントなデザイン

クロノグラフとワールドタイムを融合した新しい5930モデルは、18金ホワイトゴールドのクラシックなラウンド型ケースに収められている。デザインの特徴のひとつは、1940～1950年代に流行したウイングレット（小翼）スタイルのラグである。タイムゾーン調整ボタンは伝統に従い10時位置に配置され、2つのクロノグラフ・プッシュボタンと同じく、マニファクチュール パテック フィリップのクラシックなクロノグラフによく見られる角型である。もちろんサファイヤクリスタル・バックを通して、ムーブメントの美しく精緻な仕上がりを鑑賞することができる。自動巻ローターの中央にはデリケートなペルラージュ装飾、全体はサーキュラー・コート・ド・ジュネーブで装飾され、カラトラバ十字が刻印されている。ロジウムめっきされた受け（ブリッジ）にもサーキュラー・コート・ド・ジュネーブが施されている。面取りの後ポリッシュ仕上げされた縁、縁をポリッシュ仕上げしたくり形面、ムーブメント番号などの彫り込みに施された金めっきなどのディテールは、パテック フィリップ・シール認定規準に準拠したものである。深紅に輝く爪



《報道資料》 ページ 3

石（ルビー）、金色に輝くパテック フィリップ特許 Gyromax® テンプ、そして青紫色の光沢を持つシリコン素材 Silivar® 製の Spiromax® 髭ぜんまいがアクセントを添える。パテック フィリップ・ターミナルカーブを備えた Spiromax® 髭ぜんまいは、ブレゲ髭ぜんまいの同心円性を保った伸縮とクラシックな平髭ぜんまいのスリムなシルエットの両方の特長を兼ね備えている。

すべてを一目で読み取れる文字盤

文字盤を一瞥すれば、2つのコンプリケーション機能がいかにシームレスに統合されているかが分かる。ブルーに着色された外周の都市表示リングには、各々のタイムゾーンを代表する24の都市名が記載されている。もちろん、リヤドがドバイに、ヌメアがブリスベンに変更され、以前、UTC+4ゾーンに位置していたモスクワが現在ではUTC+3を採用している等、近年一部のタイムゾーンの名称に加えられた変更も反映されている。都市表示リングとその内側の24時間表示リングの間の隙間に、細いホワイトのクロノグラフ秒スケール（1/4秒単位）が配置されている。1/4秒単位であるのは、ムーブメントのテンプ振動数が4 Hz、28,800 振動（片道）／時であることによるものであり、これは1/8秒当たり1回の振動（片道）に相当する。常時反時計回りに回転する24時間表示リングは、濃淡の色分けと太陽・月のシンボルにより昼夜の別を表示する。昼部分はシルバーにブルー数字、夜部分はブルーにホワイト数字を配している。ダークブルーの文字盤中央は、パテック フィリップのすべてのワールドタイム同様、希少なハンドクラフトで装飾されている。5930モデルでは手仕上げのギョッシュ装飾が施されており、その上に18金ホワイトゴールド植字長方形インデックス、およびクロノグラフ30分計サブダイヤルが配置されている。微細なペルラージュ装飾を施したクロノグラフ30分計サブダイヤルは、デリケートなホワイトゴールドの縁、ホワイトの分スケールを備えている。文字盤のデザインは高度な芸術性を備えると共に、最高の視認性を誇っている。

新しいワールドタイム・クロノグラフ5930モデルは、2016年の今年は、ホワイトゴールド・ケースにブルー・オペーリン文字盤センターを備えたモデルが発表される。ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンドを装着し、カラーはマット・ダークブルーであり、18金ホワイトゴールドのカラトラバ十字付折り畳み式バックルを備えている。





《報道資料》 ページ 4

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

大塚和泉

電 話：03-5209-8018 (直通)

F A X：03-3256-7558

izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

《パテック フィリップ ホームページ》

<http://www.patek.com>





技術仕様

パテック フィリップ ワールドタイム・クロノグラフ5930 モデル

ムーブメント	キャリバーCH 28-520 HU 自動巻ムーブメント、コラムホイール、垂直クラッチ式クロノグラフ、ローカルタイム表示、24タイムゾーン表示、昼夜表示
直径：	33.00 mm (基本キャリバー30.00 mm、ワールドタイム・モジュール33.00 mm)
厚さ：	7.91 mm (基本キャリバー4.9 mm、ワールドタイム・モジュール3.01 mm)
部品総数：	343個
石数：	38石
連続駆動可能時間：	最小50時間、最大55時間
巻上げローター：	単方向巻上げ式21金中央ローター
テンプ：	Gyromax®
振動数：	28,800 振動 (片道) /時 (4 Hz)
髭ゼンマイ：	Spiromax®
髭持ち：	可動式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・引き出した位置： 時刻合わせ ・押し込んだ位置： ぜんまいの巻き上げ
表示：	指針表示： ・ローカルタイム時・分 ・クロノグラフ秒針 (センターセコンド) ・クロノグラフ30分計 表示窓： ・都市表示リング (24の都市名を記載) ・24時間表示リング (濃淡の色分けと太陽・月のシンボルにより昼夜の別を表示)
プッシュボタン：	・クロノグラフ・スタートおよびストップ (2時位置) ・クロノグラフ・ゼロ復帰およびフライバック (4時位置) ・タイムゾーン調整ボタン (10時位置)：プッシュボタンを押すごとに、時針は1時間先に進み、同時に都市表示リングと24時間表示リングは反時計回りに1目盛 (1時間分) ずつ回転
認定印：	パテック フィリップ・シール





外 装

- ケース： 18金ホワイトゴールド
サファイヤクリスタル・バック
3気圧防水
- ケース寸法： 直 径： 39.50 mm
長 さ： 48.23 mm (ラグ～ラグ)
幅 ： 42.85 mm (3時～9時、リュウズを含む)
厚 さ： 12.86 mm (サファイヤクリスタル・ガラス～サファイヤクリスタル・バック)
ラグ間隔： 21 mm
- 文字盤： 3ゾーン文字盤：
・都市表示リング（ブルーにホワイト転写文字）
・24時間表示リング（濃淡の色分けと太陽・月のシンボルにより昼夜の別を表示、昼部分はシルバーにブルー数字、夜部分はブルーにホワイト数字）
・中央はダークブルーに手仕上げのギョシエ装飾、18金ホワイトゴールド植字長方形インデックス
- 指針：
・18金ホワイトゴールドのドフィーヌ型時、分針（3面のファセットが施され、中央部分に夜光コーティング）
・ロジウム・プレート・スチール製Parfilクロノグラフ秒針
・ロジウム・プレート・スチール製バトン型クロノグラフ30分計針
- 革バンド： ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーはマット・ダークブルー、18金ホワイトゴールドのカラトラバ十字付折り畳み式バックル付

